

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成28年9月15日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 農学研究科・応用生物学専攻

職 名 准教授

氏 名 中 川 聡

助成の種類	平成28年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 国際会議開催助成		
事業内容	第5回深海微生物学国際ワークショップ		
開催期間	平成28年9月10日 ～ 平成28年9月11日		
開催場所	京都大学 北部総合教育研究棟		
参加者	総数 88名	内訳 国内 55名 国外 33名(参加国数 9ヶ国)	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム・要旨集、事業の写真)		
会計報告	事業に要した経費総額	1,981,727 円	
	うち当財団からの助成額	990,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 日本農芸化学会、(公財)京都文化交流コンベンションビューロー、株式会社WDB環境バイオ研究所、株式会社生物技研、株式会社カネカ、株式会社シン・コーポレーション、エムアール理化、参加者	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費交通費	708,252	708,252
	会場費・会議費	295,741	158,041
	要旨集製本費	141,432	
	通信運搬費	10,367	
	スタッフ人件費	207,875	123,707
消耗品費	84,533		
スタッフ昼食費	12,800		
記念品費	217,226		
乾杯用品費	56,133		
懇親会費	247,368		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)参加費無料の国際ワークショップを任せられ、会場を予約することすら難儀していた状況でしたので、今回の助成はまさに地獄に仏でした。おかげ様でワークショップは大変活況で、著名な海外の研究者達も満足されていましたし、次世代を支える若手研究者(高校生3名にも来場いただきました)にも貴重な機会を提供できたと自負しております。また、最近我が国のサイエンスは中国の勢いにおされつつあるように感じておりますが、深海微生物学分野における日本のプレゼンスを示すことができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物であり、深く感謝し、関係各位に心より御礼申し上げます。		

成果の概要／中川 聡

1. 会議名称

5th International Workshop on Deep sea Microbiology
(第5回深海微生物学国際ワークショップ)

2. 会期

平成28年9月10日(土)・11日(日)

3. 会場

京都大学北部総合教育研究棟
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
Phone: 075-753-5081
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/campus/facilities/kyoshokuin/hokubu/>

4. 参加者数 国内 55名

国外 33名

合計 88名 参加国数 9ヶ国

5. 出展者数 2社

6. 発行要旨集 A4判・30ページ

7. 実行委員長

中川 聡 (京都大学大学院農学研究科 准教授)
〒606-8502
京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院農学研究科
応用生物科学専攻海洋環境微生物学分野
e-mail: nsatoshi@kais.kyoto-u.ac.jp
Phone: 075-753-6355

8. ワークショップホームページ

<http://www.kanbi.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/Site/Workshop2016/Top.html>

9. スケジュール・内容・成果

平成28年9月10日(土)・11日(日)の2日間、深海微生物学に関する口頭発表計24演題およびポスター発表計4演題の発表がなされた。具体的には、深海底・海底下における微生物生態や微生物-大型生物の共生、海底資源開発、ウイルス、物質循環、極限環境への分子的適応機構などについて発表があり、深海微生物学の諸分野を網羅したと言っても過言でないほど充実したワークショップとなった(詳細なプログラムおよび講演タイトルは添付資料を参照された

い)。最先端の研究手法を用いた研究成果から 30 年以上におよぶ長期的な研究の報告まで、学生からベテランにいたる参加者がさまざまな成果を発表し、活発に議論された。口頭発表では会場の出席者から次々と質問がなされ、ポスター発表では各ポスターの前で終始活気にあふれた議論が継続するなど、オープンな雰囲気のもと非常に活況な交流が行われ大盛会となった。第一日目の夜にはフォーチュンガーデンキョウトで懇親会を開催し、34 名の研究者が出席し 2 時間以上にわたり親睦を深めた。中堅・ベテラン研究者はもちろん、次世代の深海微生物学を支える若手研究者（高校生も 3 名が参加された）にとって有意義な機会を二日間にわたり提供し、本研究分野の活性化に貢献するとともに本国のプレゼンス向上に大きく貢献した。これもひとえに皆様方のご支援の賜物であり、深く感謝し、ご参会頂きました関係各位に心より御礼申し上げます。

9 月 10 日（土）の講演者と所属

Mohamed Jebbar (Univ. Brest, CNRS, Ifremer)
Anais Cario (Rensselaer Polytechnic Institute)
André Antunes (Edge Hill University)
Xiang ZENG (Third Institute of Oceanography, SOA)
Eva Sintes (University of Vienna)
Long-Fei Wu (CNRS-CAS)
Weijia Zhang (Ins. Deep-Sea Sci. Eng., SOA)
Masayoshi Nishiyama (Kyoto Univ.)
Jun Kawamoto (Kyoto Univ.)
Xiao Xiang (Shanghai Jiao Tong Univ.)
Sotaro Fujii (Hiroshima Univ.)
Shunsuke Sato (Kaneka Co.)

9 月 11 日（日）の講演者と所属

So Fujiyoshi (Kyoto Univ.)
Yong Wang (Ins. Deep-Sea Sci. Eng., SOA)
Peter R. Girguis (Harvard Univ.)
Masahiro Yamamoto (JAMSTEC)
Cécile Dalmaso (Univ. Brest, CNRS, Ifremer)
Brett J. Baker (Univ. Texas)
Shingo Kato (JAMSTEC)
Mercier Coraline (UBO)
Daniel De Corte (JAMSTEC, Univ. Vienna)
Tomoyo Okumura (JAMSTEC)

Sayaka Mino (Hokkaido Univ.)

Elizaveta Bonch-Osmolovskaya (Winogradsky Ins. Microbiol., RAS)

ポスター発表

Xuegong Li (Ins. Deep-Sea Sci. Eng., SOA)

Qunjian Yin (Ins. Deep-Sea Sci. Eng., SOA)

Zhuo Li (Third Institute of Oceanography, SOA)

Takaaki Kuribayashi (Hiroshima Univ.)